

DB/DAプロジェクト

市川伸一、安田直樹、野田祥代、古荘玲子、大越克也

DB/DAプロジェクトは、データベースとデータ解析に関する研究開発、および、天文データセンターの運用を行うセンタープロジェクトである。国立天文台外の方々にも多く参加していただいております、平成14年度の本プロジェクトの参加者は約25名であった。

◎天文データセンターの運用

天文カタログ（数値や文字の表形式データ）、文献データベース（ADS;ApJ, AJ, PASP, A&A, A&AS）、天文画像（全天乾板のデジタル版であるDSS/DSS2など）、IUEデータアーカイブ、HSTデータアーカイブなどの様々な天文データベースを運用公開し、国内外の研究者の利用に供している。平成13年6月からハワイ観測所（すばる望遠鏡）、岡山天体物理観測所、東京大学木曽観測所のアーカイブデータを公開するSMOKAの運用を開始している。SMOKAは平成7年より運用してきたMOKAにすばる望遠鏡のアーカイブデータを加え、再構築したものである。平成14年6月以降、すばる望遠鏡の共同利用観測のデータが順次（観測後1年半）公開されているのに伴い、利用が飛躍的に増えた（下のグラフ参照）。

また、多波長画像表示システム（jMAISON）を宇宙科学研究所宇宙科学企画情報解析センターと協同で運用している。

これらのサービスは、全て天文データセンターのWEBページ（<http://dbc.nao.ac.jp>）からアクセスできる。

◎データベースとデータ解析に関する研究開発

SMOKAの開発を引き続き進めており、平成14年度は、銀経銀緯と黄経黄緯による検索を可能にし、移動天体（小惑星など）の検索機能を付け加えた。また、較正用フレームの検索機能も実現した。天文学研究を推進するためのより高度な機能の開発をさらに進めているが、特に、一次処理、および、位置較正を済ませたデータの公開（当面すばる望遠鏡のSuprime Cam.のデータ）に向けての開発に重点を置いている。

また、宇宙科学研究所宇宙科学企画情報解析センターと協同で多波長画像表示システム（jMAISON）の開発を進めており、使い勝手の向上と対象データの拡大に重点を置いている。

平成13年度末より、スーパーSINETの一環として宇宙科学研究所との間に1Gbpsの専用接続が実現しており、これを活用した天文データベースの連携運用などの実験研究を引き続き進めている。

以上。

